

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 塔野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）」に関する調査、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

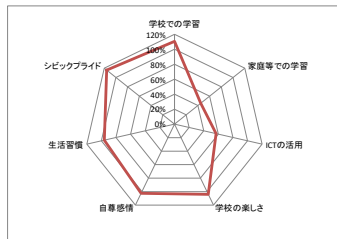
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○13/14問が全国平均を上回った。特に、物語文の読み取りに十分な成果が見られた。 ●「漢字を文の中で正しく使う」「人物像を具体的に想像するなど、自分の考えをもつ」点にまだまだ課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題	
	努力が必要な問題	●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	○「数と計算」に関する問題はすべて全国平均を上回った。特に、問題場面の数値関係をとりえ、式に表す部分で十分な成果が見られた。 ●「立体」「グラフの読み取り」に大きな課題が残った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	○速さの意味を問われた問題	
	努力が必要な問題	●直方体の見取り図について理解し、かく問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
○ 「学校での学習」に関する問いすべてに対して、約80%以上の児童が肯定的な回答をしている。また、「学校に行くのが楽しい」と回答した児童は92%であり、全国平均を7.5ポイント上回った。
○ 「自尊感情」に関する問いすべてに対して、約86%以上の児童が肯定的な回答をしている。特に、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童は100%だった。
○ 「地域や社会をよくするために何かしたい」と回答した児童は96.7%であり、全国平均より13.4ポイント上回った。
● 「家庭等での学習」に関する問いに対して、肯定的な回答を児童は全国平均よりも大きく下回った。
● 「授業で、または学校の授業時間以外にICT機器を使用する」と回答した児童は全国平均よりも大きく下回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

- どの教科においても、基礎的・基本的内容の定着を図ると共に、自分の考えをもち、それを基に話し合い活動を設定し、自分の考えを広げたり深めたりする授業づくりに取り組む。
- 朝活動等を利用し、計画的にICT機器に関するスキルアップを目指す。

- ② 家庭生活習慣に関する取組

- 生活習慣づくり・家庭学習の定着の大切さについて、学校だよりやばけんだより、学校HPやPTA活動等を通じて情報発信し、啓発を図る。